

「新井」開削350年記念特別展

「水のめぐみ」より

④「用水」はいつのころから



▲「古代から同じ願いで播磨町に入った新井」

川やため池の思い出を募集しています。(郷土資料館)



「いなみ野台地」に「用水」がつくられたのは江戸時代です。しかし「用水」の歴史はいつ始まるのでしょうか。

以前、紹介しました奈良時代に書かれた『播磨国風土記』には、今の加西市の油谷へ西脇市の野間川の水を引くという話があります。また加古川市の五ヶ井は、聖徳太子がもらった田へ水をひく用水路との話があります。

さらに、福岡県板付遺跡の水路からは、稲作の始まりとともに、田で用いる水を導く溝をつくり、工夫したことが分かります。答えとしては、お米が入ってくる弥生時代の初めの紀元前300年ごろにはつくられていたと考えられます。



このコーナーに登場してくださる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。企画グループ

活動や参加者の様子

「今日頑張れば、明日は必ず良くなる」そんな若い人たちのチームです。高校、大学そして社会人野球時代に満たされなかった目標を追って頑張っている、一途な選手に感動します。

全播磨硬式野球団はそんな野球のすばらしさに魅せられた野球小僧たちのクラブチームです。

メンバー構成

大半が若い人。高校、大学そして社会人と野球をやってきた人たちです。甲子園、神宮、東京ドームの桧舞台に立てた人や立てなかった人が、互いに競い合い、目標に向かって真剣に取り組んでいます。

活動の内容(練習や試合など)

働きながら十分でない練習時間、そしてお金と葛藤しながら週末には野球ができるという楽しみと「願いを成し遂げたい」という熱い思いを抱いて



全播磨硬式野球団  
代表 赤松 一朗さん

集まっています。



播磨町、兵庫県の代表として都市対抗野球出場が一つの目標ですが、日本選手権、クラブ選手権の予選会などでも、地域の方に一人でも多く球場に足を運んでいただけるよう、日々鍛えています。

また、小・中学生たちにも将来に夢をつないでもらうために、定期的に野球教室を開催しています。

グループのモットー(目指しているもの)

一流企業選手と競った誇り、学んだものを生かして、将来それぞれの道で社会人として一流であること。一野球道を極める

ユニークなエピソード

この度OB会が誕生します。現役時代に抱いていた熱いものは、今の若い人たちも変わりはない。目標がかなえられる様に皆で応援をしようとか分野で活躍している先輩たちから申し出がありました。現役、OBの交流が始まり、さらに大きな輪となって発展します。感謝をします。



町の人口 6月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,146人(-23人)	男...16,721人(-23人)	世帯数...12,980(-8)
	女...17,425人(±0人)	